

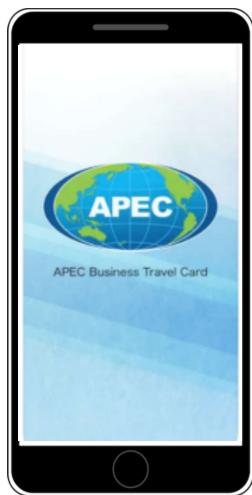
APEC・ビジネス・トラベル・カードはこんなに便利！

APEC・ビジネス・トラベル・カード（ABTC）は、APEC域内（※注1）を頻繁に渡航するビジネス関係者の移動を円滑にすることを目的として、ABTC制度参加国・地域の政府が自国・地域のビジネス関係者に対して交付するカードです。

このような方におすすめです。

- APEC域内へ、短期出張によく行く。
- 出張準備はサッとすませたい。
- 思い立ったらすぐ現地に行きたい。
- 現地での時間をもっと有効に使いたい！

※注1：APEC域内（ABTC制度参加国・地域）
オーストラリア、ブルネイ、カナダ、チリ、中国、香港、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、パプアニューギニア、ペルー、フィリピン、ロシア、シンガポール、台湾、タイ、米国及びベトナム



ABTCでいつものスマホがビザ代わりに！優先レーンも使えます。

★メリット1 ビザなし渡航（※注2および注3）

短期商用目的なら、有効期間内に何度でもビザなし渡航が可能になります。

★メリット2 入国審査は優先レーンで

空港でABTC専用レーンを利用可能となり、入国手続きも並ばずスマートに。

★メリット3 利用も簡単、アプリをタップ

アプリをインストール、必要事項を入力してログインするだけ。

※注2：米国とカナダは、APEC・ビジネス・トラベル・カード（ABTC）制度への暫定的な参加メンバーのため、入国審査においてABTC専用レーン（または優先レーン）の使用はできませんが、ABTCによる入国は認められておらず、査証の取得が必要です。

※注3：現時点（2024年3月現在）で、ロシア政府は、バーチャルABTCによる入国を認めていません。そのため、ロシアへの渡航を希望される場合、有効なプラスチックABTC又は入国査証が必要となります。ただし、日本では、2024年4月1日以降に受理された申請に対してプラスチックABTCを交付しないため、バーチャルABTCの所持者はロシアの入国の際には査証の取得が必要となります。2023年4月10日以降、ロシア政府は、特別措置として、バーチャルABTC所持者を対象とした査証発給を実施していますので、駐日ロシア大使館・総領事館にお問い合わせください。

APEC・ビジネス・トラベル・カード（ABTC）のデジタル化

APECは、ABTCの利用者拡大及び利便性向上を図る観点から、2021年3月にバーチャルABTCの運用を開始しました。2025年1月時点で13か国が導入し、外務省では2024年4月1日から運用を開始しました。

■デジタル化のメリット

- ・24時間365日、どこからでもオンライン申請が可能
- ・交付までの所要期間が大幅に短縮（現状は15～20開庁日で交付）
- ・アプリでのリアルタイム承認状況確認、承認国、地域で即時利用可能
- ・旅券更新や端末紛失時も迅速な継続利用が可能、カードからバーチャルABTCへの切替も可能

■バーチャルABTCの導入方法

- ①外務省HPから申請サイトにアクセスし、オンライン申請、収入印紙13,000円分を購入し、外務省に郵送（手数料のオンライン納付は現時点で不可）
- ②スマートフォン等のデバイス端末にアプリをダウンロードし、ログインの上、バーチャルABTCを利用。

外務省HP
（ABTCリング）



■お問い合わせ

外務省 経済局 アジア太平洋経済協力室 E-mail : abtc@mofa. go. jp



秋田の貿易ビジネスをサポートします

一般社団法人 秋田県貿易促進協会

電話 018(896)7366 FAX 018(896)7367 Email info@a-trade.or.jp ホームページ http://a-trade.or.jp/

〒010-0923

秋田県秋田市旭北錦町1-47 秋田県商工会館6階

ATPA
一般社団法人
秋田県貿易促進協会
Akita Trade Promotion Association

Newsletter

第71号
2025年1月発行

海外展開支援セミナー開催

海外展開検討・初期段階向けセミナー
米国FDAセミナー
APEC ビジネス トラベル カード（ABTC）について



1月29日、海外進出や販路の拡大を検討中の皆様に向けて、具体的な成功事例や戦略、注意すべきポイントなど、海外ビジネスの専門家による実践的なアドバイスをお届けするセミナーを開催しました。

第1部では、「海外展開検討・初期段階向けセミナー」として、海外ビジネス支援に関するあらゆる情報・サービスの提供やメディアおよびイベントの運営などをおこなっている海外ビジネス支援プラットフォーム「Digima～出島～」を運営している、株式会社Resorz 取締役 鷲澤 圭氏が、同サイトに登録している4000社超の企業データと、25000件以上の海外進出に関する相談を受けた実績をもとに、日本企業の海外進出動向と成功のポイントについて解説しました。

Digimaでは各国のビジネス支援ができる国内外の優良企業700社（弁護士、税理士、コンサルティング、市場調査、人材紹介、PR、多言語サイト開発など）と連携し、海外ビジネスの課題解決に役立つサービスを提供、海外ビジネスでの課題を抱えている日系企業や公的機関、自治体などをサポートしています。

第2部では、「米国FDAセミナー」として、米国ロサンゼルスに本社を構えるコンサルティング会社であり、日本企業の米国進出を数多くサポートしている株式会社グロービッツ・ジャパン代表取締役社長 春山 貴広氏が、米国で食品・飲料・化粧品などを輸出版売する際に必要となる、FDA (Food and Drug Administration/アメリカ食品医薬品局)からの認証取得方法などについて説明しました。また、自身の経験を元に、米国FDAの仕組みや食品への規制要求事項の説明に加え、米国でのビジネス成功を目指す上で、商習慣、交渉等の重要なポイントについても解説しました。

さらに、APEC域内を頻繁に渡航するビジネス関係者の移動を円滑にすることを目的として発行している「APEC ビジネス トラベル カード（ABTC）」の最新情報について、外務省経済局アジア太平洋経済協力室ABTC班より紹介しました（オンライン参加）。外務省では日本国内でのABTCの取得について、普及啓発を進めています。外務省が他団体が主催するセミナー等でABTCの制度について説明することは、今回の秋田県での開催が初めてであり、今後のモデルケースになることでした。（※ABTCの詳細は4ページ目を参照）

本セミナーを通じて、海外ビジネスに関する理解が一層深まり、海外販路拡大に向けた貴重な情報が共有されました。当協会では、今後もこのようなセミナーや情報提供の機会を設け、会員の皆様の活動を支援してまいります。



（株）Resorz 鷲澤取締役



（株）グロービッツ・ジャパン 春山代表

秋田県の国際交流員や県内の高校、大学での講師を歴任し、平成16年から当協会の専門アドバイザーを委嘱している、ヴィクトル先生から現地レポートが届きました。ここに原文のまま掲載します。

ウラジオストクで日本産の物、 何を買えるか？

ネザムトチノフ・ヴィクトル
(在ウラジオストク)



30年前の秋田のことでした。

ビジネスで秋田にきたロシアの知人が買い物の手伝いを頼みました。

魔法瓶を買いたがっていました。珍しい物ではないので、どこでも売っていると思って近くにある「ダイエイ」というデパートまで連れていきました。当時は中国製の商品を扱っている有名なところの一つだったのではないかと思います。

魔法瓶がずらりと並んでいるコーナを探し、ありとあらゆるサイズ、きれいな模様がついてある魔法瓶がたくさんありました。けれど、友だちは一本も選びませんでした。どうしてでしょうかと聞きましたが、「全部中国製のものだ」と彼はこう答えました。日本製のものを望んでいたようです。

ロシア人は中国製の品物を断ることがないが、わざわざ日本を訪れたので、ラベル「Made in Japan」とつけてある服か日用品などが優先だったようです。「Made in Japan」は品質が優れているというイメージが強いからです。

最近、親戚の家族が中国旅行に行ってきました。現地の通訳・ガイドさんは日本産の車で宿泊ホテルに乗り付けました。親戚は、今のロシアの特にウラル山脈の西方では中国産の車ブランドが幅広く宣伝されているということを知っているので、ピーアールとして中国産の車を使ったほうがいいではないか、と問いかけたら、「品質と信頼性などの面から見ると、中古車であっても安定的だ」と答えてくれました。

ロシアの市場に登場したばかりの中国の自動車産業が、評判が低いそうです。マスコミによりますと、品質に関する苦情が多いそうです。極東地域に住んでいる人々は、たぶん中国産の車に乗る希望が出てくることがないらしいです。

「安全が第一」というスローガンが有効なんです。これは自動車だけでなく、農産物を除くほとんどの商品にも当てはまります。例外は野菜と果物で、そのほとんどは沿海地方に隣接する中国の省から輸入されています。

コロナ禍、続いてウクライナとの関係が悪化になってから、日本からの輸入がなくならないかと恐れがありました。実は、しばらく、そうでした。日本製の物薄が目立ち始めました。以前、「ダンラン」という店舗でふじりんご、王林りんご、コメなどがけっこう売っていたが、いつの間にか、店は土産物の販売に方向転換するようになりました。

時間が経ってから、日本製品の専門店があちらこちらに現れるようになりました。けれども、賞味期間の短いではなく、長く保存できる物、つまり化粧品、さまざまな洗剤、美容製品、スキンケアプロダクツなどです。食料品ですと、フルーツよりチョコレート、キャンディー、クッキー、醤油とほかのソース、調味料、CupNoodleなどになっています。ビールの場合は、バーコードをチェックしなければならないだろう。なぜならば、まったく同じラベルであっても中国製のビールが多いです。米は、秋田県産あきたこまちも新潟県産コシヒカリも売れるようになりました。どこの店舗でもDHA EPA含有サプリメントが目立っています。確かな需要があるのだろう。

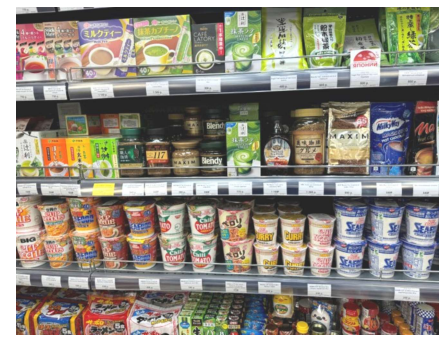
買い物客が多く訪れる中心市場には、日本製品を販売する専門店が3軒あり、「カズミ食品」、「カズミ化粧品・家庭用品」、「アジアミックス」となっている。

ほとんどの店舗は町の中心に集中しています。最近、「ノボテル」ホテルの近くに「東京マーケット」という新しいお店がオープンしました。「日本のコンビニ」とも呼ばれているが、違いは、すぐに食べられる料理だけをラインナップしている点です。のり巻き、さまざまなサラダ、インスタントスープ、ファーストフードなど売っているし、コーヒーとビールのカウンターも整備されています。店でラーメンを味わうこともできるし、もちろんロシア人の口に合うように。内装や装飾もとても素敵です。

最近、ウラジオストクでは日本食レストランが人気になってきました。日本の商品を販売しているお店も増えてきてとてもいいと思います。



カズミ食品①



カズミ食品②



カズミ食品③



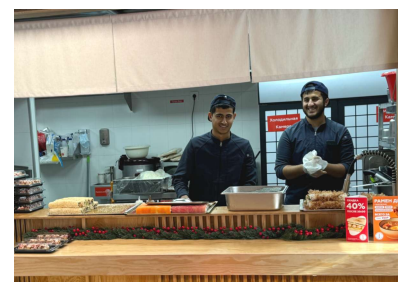
東京マーケット①



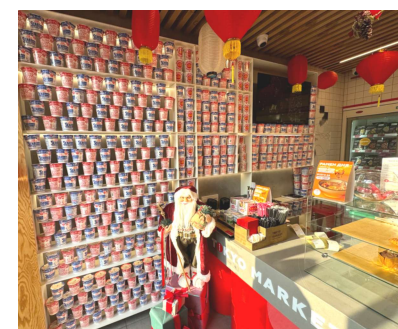
東京マーケット②



東京マーケット③



東京マーケット④



東京マーケット⑤



東京マーケット⑥



東京マーケット⑦



東京マーケット⑧



東京マーケット⑨